

33才 無所属 戸田市議会議員 **本人**

すがわら文仁



討議資料 23号 発行人 すがわら文仁 戸田市美女木 8-21-6 TEL/FAX 422-1673



自転車でお伺いして、ご意見
やご要望を市政に届けます！

プロフィール

昭和50年7月30日生まれ 33歳
身長170cm 体重64kg 獅子座 A型
美谷本小学校・美笹中学校卒業
伊奈学園総合高校・日本体育大学卒業
明治大学公共政策大学院修士課程修了
公共政策学修士

若手政治家養成塾 事務局長
埼玉坂本龍馬会 幹事
大前研一氏主宰 一新塾16期生
日本地方自治学会 会員
日本自治体危機管理学会 会員
戸田市体操協会 会長

【資格】 中学・高校教員免許(体育・保健)
【趣味】 読書 史跡巡り B級グルメ探索
【特技】 バク転 スキー のび太並みの早寝
【好きな言葉】 為せば成る(上杉鷹山)
【夢】 努力した人が報われる社会の実現
【家族】 父(体操の指導者・元教諭)
母(体操の指導者・ミソハコ五輪選手)
妹(NPO代表・アトナタ五輪選手)
犬(ラブラドル・リトリバー)

すがわら文仁とは？

子どもの頃から体操競技、サッカー、アルペンスキーと様々なスポーツを経験。父と同じく教員を目指し大学に入学するも教員採用試験不合格で挫折。しかし部活の先輩が25才で政治家になるのを間近に見て若者の政治参加の可能性に夢を抱いた。

社会人時代は、地元でスポーツ指導者として働きながら子どもの体力低下や中高年の介護予防やメタボリック症候群に問題意識を持った、また学校設立のボランティア活動でカンボジアやミャンマーを訪問して、政治によって国民生活が大きく左右されることを痛感した。

2005年1月、当時29才で市議選に立候補する。ジバン(後援会)カンバン(知名度)カバン(お金)がなければ当選は無理と言われたが、夢と情熱と使命感を胸に挑戦。多くの予想に反して当選。平均年齢53才の市議会以最年少である。

現在は大学院で学んだ公共政策を活かし様々な政策提言を行なう日々。また県内外の若手政治家の仲間と「若手政治家養成塾」を立ち上げて、その活動が様々なメディアに取り上げられている。

メール sawayaka@sugawarafumihito.com

HP sugawarafumihito.com

12月議会の一般質問(予定)

病児・病後児保育の継続とサービス確保について

テレビ・新聞でも報道された通り、市内2箇所に開設されていた病児・病後児保育施設の委託業者が10月末で事実上倒産しました。家庭保育については市の迅速な対応によりほぼ次の受け入れ先が決まり、事なきを得ていますが、病児・病後児保育サービスは現在も停止状態です。

今後も病児・病後児保育のニーズが高いので、一刻も早いサービス提供が望まれます。今後増加するであろう民間委託の契約については、認証の厳格化や契約ガイドラインのあり方も、リスクマネジメントの視点からも考えていかなくてはならないと思います。

今回の問題は経営者の無責任が一番の原因ですが、公共サービスを委託する側の行政も最悪の事態の回避策を取る必要があるのではないのでしょうか。

子育て支援策を低下させないために、市が今行なうべきことについて質問します。

病児・病後児保育・・・普段保育園に通っている子どもが風邪などの軽い病気にかかり(あるいは回復期にあって)集団保育が不可能な場合に、その子どもを預かって世話をすること(すがわらが提言して新聞報道されました)

教育研究所跡地の利活用について

市の所有している大きな土地は2つあります。一つは中町多目的広場であり、もう一つは美女木5丁目にある教育研究所(旧母子センター)跡地です。

現在、母子センター跡地は公園緑地公社に無償貸与していますが、来年の3月で貸与契約が切れます。

今後、市は約730㎡あるこの跡地をどのように考えていくのでしょうか。これまで取り上げられなかった市有地のあり方について問題提起します。

ICTを活用した広報やコミュニティの活性化について

平均年齢が38歳と県内一若い戸田市民の多くはインターネットを利用しております。YouTube(ユーチューブ)などの動画共有サイトやmixi(ミクシー)などのSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)はこの数年で一大情報メディアに定着しつつあり、いくつかの自治体ではこれらを利用して様々な取り組みを行なっています。

ふれあい戸田(テレビ埼玉)をはじめとする広報を動画共有サイトに掲載して戸田市を全国にPRすることや、自治体版のSNSを導入して地縁や自治会のコミュニティを補完する役割を担えないかを提言します。

すがわら文仁マニフェスト2009

の理念と構造 解説その

政策理念

持続可能化の追求

環境・財政・社会・個人が、世代を超えながら最大多数の最大幸福を求め、子ども達にツケをまわさない。

包摂(ほうせつ)化の追及

弱者や外部を排除せず、多様な住民を巻き込んだ、参加や協働、共生や協治を可能にする。

有効化の追求

予算使い切り主義から、成果志向、目的志向、顧客志向への転換を進めて公共経営システムを確立。行政の生産性や質を高め、最少費用で最大成果をあげる。

マニフェストの構造

3つの政策理念をもと、72の具体的政策に取り組みすることで、24の戦略的目標を達成し、最終的に6つの究極目標を達成します。

